

進路だより



茨城県立那珂高等学校 進路指導部

英語の学習は「白いご飯」のようなもの

① 暑くなりましたね

那珂高生の皆さん。元気ですか？ 梅雨明け前だというのに急に暑くなりましたね。これで梅雨が開ければ本格的な夏の到来です。栄養と睡眠を十分にとりながら適度な運動をし、体力・気力を充実させて夏を乗り切りましょう。

日本の夏は、太平洋高気圧が南の海から高温の空気と大量の水を日本列島に運んできます。高温だけでなく、極めて湿度が高いことが日本の夏の特徴です。じつとりと肌にまとわりつくような不快な暑さは、時に堪らないほどです。しかしそんな高温多雨な気候だからこそ、古来より日本で米作が行われているのもまた事実なのです。



② 米はハイパワーな穀物

三大穀物（米、小麦、トウモロコシ）のなかで、米は最もハイパワーな食べ物です。単位面積あたりの収量も多いし、カロリーも高い。冷涼で小雨のヨーロッパでは穀物栽培は小麦が中心で、ほかにはジャガイモやてんさいなど。米作はイタリアの一部を除いてできません。彼らは小麦やジャガイモが好きだからそれを作っているのではなく、気候的に米が作れないのです（米は高温と年降水量1000mm以上が必要条件）。

高温多雨な日本ではハイパワーな米が作れるからこそ、この狭い国土（しかも7割は山林で耕地面積、可住面積はさらに狭い）に1億以上の人間が生きていけるのです。日本の人口密度は336人/km²（可住地の実態はさらに高い）ですが、ヨーロッパを見ればEU第一の農業大国であるフランスでも113人/km²にすぎず、さらに南半球の「乾燥大陸」とも言われるオーストラリアはたったの3人/km²です。

私達が毎日当たり前のように白いご飯を食べられるというのは、世界の食生活の平均から見ればまさに僥倖（←偶然に得た幸運）であると言えるでしょう。地形的に見ても、もし本州の中央部に南北に走る脊梁（せきりょう）山脈が無かったとすれば、新潟県は今のような穀倉地帯にはならなかったはずです（←理由を簡潔に述べてみよう！）。

③ 英語の勉強は「白いご飯」（毎日のものだから）

日本は戦後(1945~)に食の多様化が進み、洋食の文化が浸透しました。また洋食以外にもアジアなど様々な国・地域の食文化が入ってきました。しかし、お米が主食であることはこれまでも、これからも変わらない文化であり続けるでしょう。

以前から集会等でお話ししているように、英語の勉強は、例えて言うなら白いご飯です。なぜなら、どちらも毎日のものだからです。いくらステーキが好きだからといって毎晩ステーキを食べる人はいないし、魚が好きだからといって毎晩寿司を食べる人もいないでしょう。でも、どんな人もご飯はほとんど毎日のように食べるのではないのでしょうか？ 肉や魚は食べたり食べなかったり、であるように、理科や社会は勉強する日もあればしない日もあるでしょう。それで良いと思います。しかし英語は毎日やらなければなりません。白いご飯を食べるように、少なくとも日に一度はテキストを開いて、単語帳を開いて勉強しましょう。

④ 楽器の練習にも似ている

語学の勉強というのは楽器の練習にも似ています。毎日やらないと伸びません。ちょっとずつでも良いから、毎日やるのが大切です。これを書いている私もこれまでにピアノ、ギター、バイオリンを(それぞれ少しづつ)やりましたが、弾かない日が何日か続いてしまうともう駄目です。身体が楽器を弾くことを忘れてしまいます。感覚が遠くへ行ってしまう。

英語の学習のなかでも、特に単語の勉強は毎日のルーティンワークにしましょう。まずは語彙を増やすこと。できれば辞書を引きながら丁寧に単語の様々な意味を理解していくことです。様々な例文を読みながら単語を理解していくと、英米人がどういう感覚でこの単語を使っているのか？というのがだんだん分かってきて、勉強そのものが楽しくなってきます。



“pull=引く”のような機械的な暗記ではダメですよ。暗記の先にある本質的な理解こそ、学習の醍醐味です。

「終わって良かった」から「やって良かった」と言えるような学習へ。さあ皆さん、頑張りましょう！